

特別講演会

〈国際協力と日本の教育〉

—モンゴルプロジェクト—

英文 Ver へ

日時：平成 19 年 10 月 16 日（火）14:00～18:30

会場：東京学芸大学 S 410 教室

次第

1. 開会の辞
2. 学長挨拶 東京学芸大学長
3. 経過報告 モンゴルプロジェクトコーディネーター
4. モンゴル研修員代表 挨拶
5. 特別講演
武村重和先生（広島大学名誉教授）
6. 質疑応答
7. 閉会の辞

特別講演会の趣旨と講演者紹介

本学では、国際教育協力推進プロジェクトの一つとして、JICA「モンゴル国子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト」が、平成 18 年度(2006 年度)より 4 カ年計画で進んでいます。

今年は 2 年目を向かえ、10 月 8 日からモンゴル国のカウンターパートが、約 5 週間の予定で、日本における研修を受けることになっています。

この日本における研修期間中に、広島大学名誉教授 武村重和氏をお招きして特別講演を予定しています。

武村氏は、日本の教育課程の基準である学習指導要領のうち、特に 1968 年第 3 回改定の「科学主義」を特色とする小学校及び中学校の「理科」の開発、実施、評価に従事した上、多くの教師用図書の執筆と編集などを通して、小学校及び中学校理科教育の質的改善に多大の貢献をされています。

氏は、1987 年 4 月、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)のユネスコ APEID 事業「初等教育分野」を広島大学で開始し、1994 年には、国際環境協力、国際教育協力、国際平和協力の 3 つを柱とする大学院国際協力研究科(IDEC)の設置に尽力されました。今日、IDEC は、国際協力機構(JICA)、UNESCO 及び広島県教育委員会との連携を特色とする事業を推進し発展してきています

この間、およそ 25 年にわたるアジア太平洋地域の国々の理科教育の発展に助言指導を行ったこと等、高く評価され、1996 年にユネスコ賞を受賞しています。

昨年(2006 年)ケニアから帰国後、国際協力機構が世界 27 カ国で展開している「生徒中心型の授業」の協力事業に関して、経験の体系化の研究に従事し、今日、日本の子どもたちをはじめ、世界の子どもたちが愛と希望を持ち、高い学力をつけるように願って、子どもたちが経験をもとに言語や道具を活用して知識を理解し、多様な背景を持った人々と交流し、思慮深く考え自律的に活動することができる「人間開発の研究」に取り組んでいます。

武村氏は、「科学主義教育」と「ゆとり教育」、この両者を国際的な視座で語ることのできる国内外で数少ない教育者、研究者です。

今回の特別講演では、上記のような氏の国内外の教育と国際協力の豊富な経験、特に「生徒中心型授業」及び「人間開発の研究」の現状と今後の展望について、モンゴル国からの研修生のみならず、特に、教育課程、理科教育、国際協力等に関心を有する本学のすべての教職員及び留学生を含む院生と学生、そして、グローバル化する社会にあっても地域に根を張った東京学芸大学と教育の有意義な発展を願う近隣の住民の方々が対象です。

以上